

高用量インフルエンザワクチンの周知啓発と助成制度の設立を求める

高用量インフルエンザワクチンとは

インフルエンザにかかると高齢者は重症化し易く、肺炎や糖尿病悪化、心筋梗塞、脳卒中、フレイルなどの合併症を発症しやすい。元々フレイルであった方はインフルエンザにかかると入院するリスクが高く、入院をきっかけに介護状態となる方も多くいる。そのため、ワクチンによる予防が重要と考える。ところが、ワクチンの有効性は加齢により低下していき、高齢者においては発症を予防するというより、重症化予防を期待する意味合いが強い。今期から国内で使用が開始となった高用量インフルエンザワクチンは、抗原量が通常の4倍あり、その分、抗体がつきやすく、通常のワクチンよりインフルエンザの発症予防、重症化予防、及び合併症予防に高い効果と安全性が国内外の研究で確認されている。欧米を中心に30カ国以上で使用され、海外では既に10年以上の実績があり、欧米のガイドラインで推奨されている。海外でも日本でも高齢者のみ接種対象。日本では承認されたばかりで、現時点では定期接種の対象にはなっておらず、国からの助成がまったくない。また、住民や医療機関に対して「選択肢があること」を周知することも極めて重要である。

高齢者はインフルエンザにかかると重症化し易く、合併症を発症しやすい！
肺炎、糖尿病悪化、心筋梗塞、脳卒中、フレイル

ワクチンによる予防が重要！

ところが...
高齢者ではワクチンの有効性↓
発症予防、重症化予防

今期から高用量インフルエンザワクチン使用！
通常のワクチンより高齢者におけるインフルエンザの発症予防、重症化予防、合併症予防
(安全性も確認済) 効果が高い！
★欧米を中心に30カ国以上で使用
★海外では10年以上の実績
★欧米のガイドラインで推奨

質問・提案

高齢者のインフルエンザ合併症や入院の深刻さ、医療費・介護費への影響をどう分析されているか。高用量インフルエンザワクチンの有効性・安全性の評価や今後の需要見通しについての見解は。市民への有効な情報提供や、医療機関との連携など、今後の接種体制構築について市の方針は。全国の自治体に先駆けて、独自助成により利用促進を図ってはどうか。

回答

インフルエンザにより高齢者や慢性疾患を持つ患者では、入院や死亡の危険性が増加する。入院率が高く、入院が長期化することや介護度が上がることで医療費・介護費は増大する。高用量インフルエンザワクチンの有効性は承知しているが、国の方で定期接種にむけて有効性や安全性、費用対効果等について取りまとめている最中であり、国の同行を注視していく。適切なタイミングでの情報提供や医療機関との連携による摂取体制の確保を図る方針である。



提案

今年度から導入することで合併症を予防できる市民が増えると考えられる。予防や医療費・介護費削減の観点から早期より積極的な取り組みを期待する。

なんでもお気軽にお問い合わせ下さい！

発行者 有川康二郎

〒924-0882 白山市八ツ矢町653-4
tel:070-1297-3804 mail:karimori1@gmail.com

ホームページ

有川こうじろう



※政務活動費を使用して広報誌を発行

新人議員 有川康二郎編集長による

白山市政だより Vol.2

新人議員ならではの視点により市議会や議員活動についての報告だけでなく、暮らしに役立つ情報などについても発信していきます！



衆議院議員会館にて

ごあいさつ

本格的な猛暑が続いておりますが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

あっという間に3カ月が過ぎましたが、おかげさまで多くのご意見を聴かせていただき、研修や視察、イベント参加など充実した日々を過ごさせていただいております。

不十分な点は多々ある一方で、理学療法士の経験を活かし、「新人でもできることがある」と手ごたえを感じることもございます。

市民の皆様のため一生懸命努めてまいりますので、引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

白山市議会議員 有川康二郎

トピックス

【必見】ドクターイエローがやってきました！

新幹線の点検車両「ドクターイエロー」がトレインパーク白山で常設展示されることになりました。「見ると幸せになる」と言われている貴重な新幹線ですが、トレインパーク白山では屋外展示のため、入館しなくても気軽にご覧いただくことができます。

写真映えするスポットとしてもおすすめです。ぜひ、幸せを見つけに、トレインパーク白山にお越しください。



【要確認】地震被害想定が見直されました

石川県は、国の活断層に関する最新の知見に基づき地震被害想定の見直しを行ったところ、以前の想定よりも被害規模が大幅に拡大していることが明らかになりました。県民の防災対策として、①建物耐震化、②家具の固定、③感電ブレーカー設置、家庭内備蓄の促進があげられており、ぜひ一度、石川県のホームページで内容をご確認下さい。(『石川県地震被害想定』と検索)

白山市の被害想定結果 建物被害：全壊、全焼 3,328棟 半壊 5,047棟 計 8,735棟

人的被害：死者 182人 負傷者 989人 計 1,171人

全避難者（発災1週間後）：12,201人

森本・富樫断層帯における被害が大きいシーンを想定

6月議会一般質問

白山市議会のホームページから動画でご覧いただけます



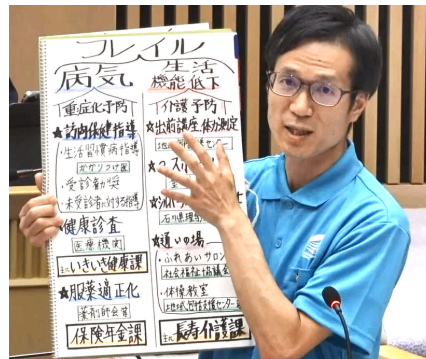
高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業における庁内連携の状況を問う

フレイルと一体的実施事業について（復習）

フレイルとは健康と要介護の中間の状態であり要介護予備軍といえる。フレイルになっても適切な対応により再び健康な状態に戻る。健康寿命延伸にはフレイル対策が必要であり、白山市民の健康寿命が延びるかどうかは白山市の行政の腕にかかっている。

3月の一般質問では、市長より一体的実施事業の具体的な取り組みとして、①病気の重症化予防（かかりつけ医と連携した生活習慣病予防のための保健指導や受診勧奨、未受診者に対する訪問指導）と②生活機能低下に対する介護予防（地域包括支援センターと連携した出前講座や体力測定、金城大学と連携したeスポーツ体験会、石川県理学療法士会と連携したシルバリーハビリ体操指導士養成講習会）を行っていると同った。また、健康診査も重症化予防を担っており、社会福祉協議会が実施しているふれあいサロンや地域包括支援センター等が実施している体操教室（通いの場）も介護予防の役割を担っている。

現状では病気に関する分野は主にいきいき健康課が、生活機能低下に関する分野は主に長寿介護課が担っており、庁内では縦割りのままで、実際には一体的に実施できてない。

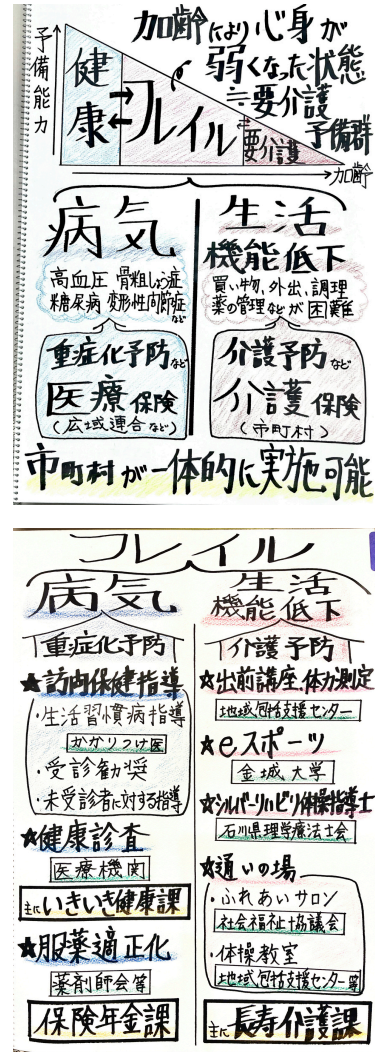


質問・提案

訪問保健指導の際に、介護予防も意識した一体的な指導を行う方が効果的である。3月に庁内連携会議を定期的実施すると答弁されたが、その進捗状況について問う。また、連携機関も入れた連携会議の開催を提案する。

回答

今月に第一回連絡会を開催し、昨年度の実績報告、今年度の計画、各課の役割等について協議・確認した。フレイルのリスク等を把握して保健事業を行い、必要に応じて通いの場につなげるなどにより、一層の庁内連携を図る。関係団体が一堂に会して事業を検証する、あるいは顔の見える関係が築くことができれば一体的実施が進むと考えられ、そういう会議の開催を検討する。



高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業における服薬適正化事業の実施を求める

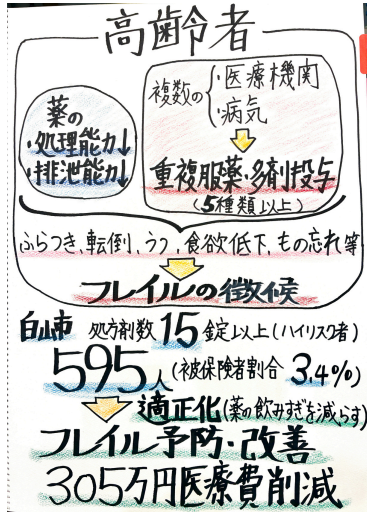
重複服薬・多剤投与はフレイルの一因

年齢が増すにつれて薬の処理・排泄能力が落ちてくるため、少量の薬でも体に強く影響するようになる。また、複数の病気をもち、複数の医療機関にかかることが多いため、重複服薬（同じ効果の薬を重複して飲むこと）や多剤投与（沢山の種類の薬を同時に飲むこと）の傾向にあり、これらによりふらつきや転倒、物忘れ、うつ、食欲低下などの副作用が起こることがある。これらは正にフレイルの徴候であり、薬の飲みすぎがフレイルの一因となる可能性がある。高齢者では処方される薬が5-6種類以上になると副作用が起こりやすくなるため、医師は薬剤数を減らせないか見直したり、増やさずに済む方法を考えたりしている。

広域連合によると、白山市における処方薬剤数が15錠以上のハイリスク者は595人もおり、多くの白山市民の服薬の適正化が求められる。

この事業は、県薬剤師会等への委託により実施可能であり、訪問保健指導や通いの場への支援などに比べ、本人の生活改善等の努力が伴わないため確実に持続的な効果が期待できる優れた取り組みであると考えられる。

さらに、この取り組みによって、フレイルが予防・改善されるだけでなく、処方される薬が減るため白山市においては年間約305万円の医療費削減効果も期待できると試算されている。



事例紹介 (Case Introduction)

課題 (Issue)	現在 (Current)	1年前 (1 Year Ago)
食事 (Diet)	食量↓ (食欲不振)	ふつう (食欲あり)
歩行 (Walking)	ふらつきあり	ふらつきなし
薬 (Medication)	降圧剤配付中断 (残薬多量)	残薬なし

「処方内容は同じ」
薬の適正化 (かかりつけ医に相談)
食量↑ (食欲あり)、ふらつき↓、外出可



質問

白山市におけるハイリスク者の現状を踏まえ、今後、重複投薬・多剤投与対策を計画的に取り組んでいかれる予定はあるか。

回答

服薬の適正化は、副作用等の健康被害を防ぐとともに医療費抑制につながることから、他市の取り組みを研究し令和8年度から事業化を検討する。

提案

薬を減らすことによる医療費抑制と共に、フレイルを予防・改善させることによる介護給付費削減も期待できる。しかも、一体的実施事業は市の持ち出しなしで実施できる。フレイル対策により市民の健康寿命を延ばすと共に、医療介護費削減につながる。この取り組みを確実に実施して欲しい。



中川 真 健康福祉部長